

「T A Cメソッドを実感！過去問題集の効果的な使い方」

過去問題集を活用する目的 ⇒ 合格しやすい状態を作るため

★短期間で合格しやすい状態を作るには、いちいち問題を処理してトレーニングして力をつけたり、試したりする目的で過去問題集を使用すべきではない。時間を必要とする上、効果が得にくい(過去問題集にある問題とまったく同じ出題はない)。

△実際の問題を使ってトレーニングし、対応力をつける

△実際の問題で自分の対応力を試す

有効なのは、知識を身につけること！

○試験の問題の知識を身につける。

○対応方法の知識を身につける

→ 試験対応の望ましい状態(どのような対応ができればよいのか)のイメージを作る。

☆試すのは、演習問題で十分。

★有効活用するための最大のポイントは、目的(期待成果＝何ができるようになりたいのか)を明確にし、それに合った方法を採用すること。

目的別のおもな活用方法

○試験問題の知識を身につけたい

- ・一読する(問題形式やボリューム・内容などを知る・定着させる)
- ・ぱらっと問題と解答を確認する(解説や問題本文不要。要求タイプ・内容・形式とそれに対応する解答内容のイメージを知る・定着させる)
- ・問題要求と問題本文を入力する(問題形式やボリューム・内容などを知る・定着させる)
- ・ガッツリ問題と解答を分析してみる(解答の構成要素を明確にし、どの部分が要求のどこに該当するのか、どのような制約が影響しているのか確認する)

○対応方法の知識を身につけたい

- ・ぱらっと形式だけ確認する(解答・解説は使わない。自分の作業イメージや事例に対する処理イメージを作る・定着させる)。
- ・問題要求だけ確認する(問題要求解釈のシミュレーションをする・定着させる。)**【具体例】**
- ・解説をじっくり読む(問題一式も必要に応じて使用するが、基本、解説を読むことで事例の対応方法、事例の約束事、特徴を知る・確認する・自分の理解と比較する)
- ・問題一式を使って問題本文読取りまでの作業に慣れる・手順を作る・手順を定着させる)
- ・解答の編集を行ってみる(制限字数を変更するなどして、実際に作成する)

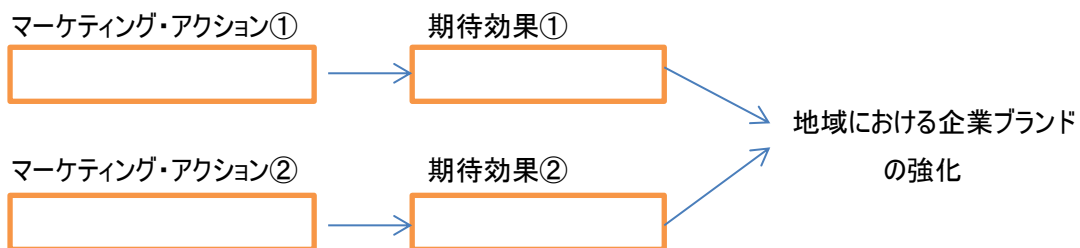
【具体例】

☆事例Ⅱの問題要求がもっともわかりやすい(まず、Ⅱからやるという手もある)。

例)H24 事例Ⅱ 第4問 (ちょっとやっかいだった問題)

地域における企業ブランドの強化に向けて有効と考えられる B 社のマーケティング・アクションを2つ提案し、それぞれについて 80 字以内で答えよ。ただし、そのアクションの実行により期待される効果についても併せて述べること。

作業①: 要求や解答のフレームを検討してみる。



作業②: 何を探せばいいのか検討してみる。

☆解答となるマーケティング・アクション①②が地域における企業ブランドの強化に有効である根拠はどのように示すのか？

典型的なのは、次の2つ(☆こういうことは知識としてもっておくとよい)

⇒ B 社以外の企業あるいは一般的な事例として、地域における企業ブランド強化につながるアクションを示す(考え方:「他がうまくいっているのだから、B 社もうまくいく」)

⇒ B 社がこれまでに行ったこととして、地域における企業ブランド強化につながるアクションを示す(考え方:「以前うまくいったのだから、今度もうまくいく」)

さらに

☆他の問題との関連を考慮したほうがよい場合もある。

例)H24 事例Ⅲ 第2問と第4問

第4問が「収益性を高める提案」であることを考慮すると、第2問の直面する課題は収益性と直接関係ないものである可能性が高い(そうでないと第4問と重なってしまう)。